

宝くじ普及広報事業による コミュニティ助成を行いました

財団法人自治総合センターが行う宝くじ助成事業を活用し、三味線餅つき保存会「井内組」では、臼や杵などの用具を購入。また、阿波おどり連「粋連」は法被や鳴り物などの阿波踊り用具などを購入しました。

この事業は、地域住民が自主的に行うコミュニティ活動に助成を行うことにより、コミュニティの健全な発展を図るとともに宝くじの普及・広報事業を行うことを目的としています。



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。



▲三味線餅つき保存会「井内組」



▲阿波踊り連「粋連」

人権擁護委員 決まる

美馬市が人権擁護委員に推薦していた、川西静子さん（金川）が、10月1日付けで法務大臣から同委員に再委嘱されました。



川西静子氏

美馬の歴史と文化 5

まい なか しま 舞 中 島

うだつの町並みの対岸にある舞中島は、吉野川の三大川中島の一つで、現在も集落が営まれる唯一の川の中島です。また、かつては県内有数の藍の生産地でもあり、藍の集散地として栄えた脇町を支えた地区でした。ここは、川の中島という地理的特性のため、ダムや堤防設置以前は頻りに洪水被害にみまわれていました。そのため、ここには多くの洪水遺産が良好な形で残っています。代表的なものを挙げると、島の周囲の竹林と竹林の中に残る前代の堤防、護岸の蛇籠石の名残の礫群、石垣で基礎を高くした住居、潜水橋、高地蔵などがあります。

この中でも特に特徴的なのが高石垣の住居です。石垣は全体が同じ高さではなく、階段状に高くしていき、水の当たる北西隅を最も高くします。そして水の当たる西側に土蔵と納屋を並べ、その東に主屋を配します。特に土蔵は北西隅の最高所に置かれており、最終的な避難所の役割を果たしていました。また石垣の基礎が洗われないように石垣の西裾に樹木を植えるなどの工夫がなされています。

舞中島では、今も基礎の高石垣は多く残されており、島を囲む竹林や田園風景に浮かぶ高石垣群の景観は非常に特徴的なもので、後世に残していくべき重要な景観です。



▲高石垣住居